

# 高齢化社会に関する大学生の意識調査報告書

佐藤 尋 生

## はじめに

人口の高齢化を論じる場合、六五歳以上の人口を「老齢人口」、一五～六四歳人口を「生産年齢人口」と呼び、「老齢人口」の総人口に占める割合を老齢人口比率、また「生産年齢人口」に占める割合を老齢人口指数と定義して、人口高齢化の目安として活用しています。

昭和四五年に七〇〇万人（総人口に占める比率一〇％）だった老齢人口が、昭和六〇年には二二、〇〇万人（同一五％）になり、昭和七五年には二、〇〇〇万人（同一六・三％）、昭和九〇年には二、七〇〇万人（同一二〇％）、実に五人に一人は老人であるという社会が、将来確実にやってくるという予測があります。簡単に言えば、若者四人で老人一人の扶養をする時代の到来です。

この様な、人口に占める六五歳以上の人の割合は、各国とも上昇の気運にありますが、とくに日本の上昇率は、スウェーデン一七・一％、イギリス一四・八％、フランス一二・八％、アメリカ一二％などと比較すれば、まだまだ高齢化が進んでいない様にも考えられます。しかし、たとえば、現在もっとも高齢化の進んでいるスウェーデンでは、

六五歳以上の人口の比率が七%から一四%になるのに八六年間もかかったのに対して、日本の場合には、二六年ぐらいでこの数値に達しそうな現状です。いわば他の先進諸国の高齢化の伸長の二倍から三倍のスピードで、日本は高齢化社会に急速に向かいつつあります。それだけに日本の高齢化対策は、諸外国の高齢化対策を参考にした対応では、充分な対応が困難ではないかと危惧されています。

こうした急激な変化が、一戸建ての持ち家の夢や職住接近の夢も、昨年の土地投機や財テクの影響ではかなく消えた都心に学ぶ学生の目には、どの様に映り、また学生にどの様に捉えられているのか、以下、意識調査の結果に沿って概略を述べてみます。

日本は、今や貿易黒字国として、全世界の国々から大きな批判を受けています。日本は経済成長の成果を、生活や社会資本の充実に計画的に使用せず、輸出の拡大にのみ向けてきたのではないか、その結果が各国との貿易摩擦として、今日、解決を迫られています。

これからの日本が社会資本の整備等に充分配慮する上で、一番大切なことは、日本人の平均寿命の問題に関連して、日本の急速な高齢化社会の到来に適した政策の実施と言えましょう。

この報告書は、海外からの内需拡大の強い要請と、産業構造の転換期であるこの時期に、都内二三大学（含短大）の大学生の、高齢化社会に関する意識調査を、昭和六二年七月一日から同七月一五日の間、一、〇〇〇名を対象に実施し、八一二名の有効回答者からの調査結果である。

一、調査期間      七月一日～七月一五日

二、調査方法      無記名式面接調査

三、対象者 都内および東京近郊在住の大学生二、〇〇〇名

早稲田大、慶応大、東京外語大、日大、東海大、国士舘大、など三三大学（含短大）

四、回収 八一二名

〔内訳〕男子学生三九〇名

女子学生四二二名

回収率 八一・二%

五、回答者の年齢、兄弟構成

\* 年齢及び性別

年 齢	男 性	女 性	計
一八歳	五〇名（二・八%）	一三九名（三二・九%）	一八九名（二二・三%）
一九歳	九一名（二・三・一%）	一二四名（二九・四%）	二一五名（二六・五%）
二〇歳	七八名（二〇・〇%）	八〇名（一八・九%）	一五八名（一九・五%）
二一歳	七八名（二〇・〇%）	二五名（五・九%）	一〇三名（一二・七%）
二二歳	九三名（二・三・八%）	五四名（一二・八%）	一四七名（一八・一%）
計	三九〇名	四二二名	八一二名

\* 兄弟構成

	男 性	女 性	計
ひとりっ子	六四名（一六・四％）	五四名（二二・八％）	一一八名（二四・五％）
兄弟二人以上	三二七名（八三・八％）	二六八名（八七・二％）	六九五名（八五・六％）
（長男、長女）	二〇〇名（五一・三％）	二二二名（五二・六％）	四二二名（五二・二％）
（その他）	一二五名（三二・一％）	一四六名（三四・六％）	二七一名（三三・四％）

## 調査結果の内容

問一、最近、総人口に占めるお年寄りの割合が非常に増えて来ていることから「高齢化社会」ということがよく話題にされます。あなたは日本の「高齢化社会」についてどの程度関心がありますか。

	男 性	女 性	計
1、非常に関心がある	五六名（一四・四％）	三二名（七・六％）	八八名（二〇・八％）
2、まあ関心がある	一三七名（三五・一％）	二二〇名（五二・一％）	三三七名（四四・〇％）
3、あまり関心がない	一四二名（三六・四％）	一三九名（三二・九％）	二八一名（三四・六％）
4、全く関心がない	五五名（一四・一％）	三一名（七・三％）	八六名（二〇・六％）

最近の日本社会の急速な高齢化現象に約五五％の学生は関心を持っており、また四五％が無関心派。高齢化社会に強く関心を示した学生の多くは、現在、祖父母と同居している、あるいは同居以外でも自分の身近に老人が生活している学生です。一方、全く関心が無いと答えた学生には、高齢者や高齢化社会は自分にさししまった問題として意識していない約一〇％の学生で、高齢化社会の認識も全く感じない現実肯定派と言えましょう。

問二、それでは、あなたはご自分の六〇歳以後の高齢期の生活について考えることがありますか。

	男	女	計
1、よく考える	二六名（六・七％）	一四名（三・三％）	四〇名（四・九％）
2、時々考える	一一一名（二八・五％）	一六四名（三八・九％）	二七五名（三三・九％）
3、あまり考えない	一八七名（四七・九％）	一七二名（四〇・八％）	三五九名（四四・二％）
4、全く考えない	六六名（一六・九％）	七二名（一七・一％）	一三八名（一七・〇％）

自分自身の高齢期における生活は、「時々考える」が三四％で女子学生が男子学生より一〇％も強い関心を示しています。これは高齢期を誰と一緒に迎えるか、将来の生活設計を結婚と深く関係づけて考えている女子学生の本音が率直にあらわれているといえます。その反面、四〇％の女子学生が将来の展望や希望よりも、現実を実現できるかどうか、自分自身の老いた姿を想像したくないという意識が強く影響した回答であり、将来に明るさや希望を見出し難いので、関心はそこそこにあるが、無関心を装っているようです。あるいは男子学生に多かった例は、日本の現在の国際社会における立場、貿易黒字の問題、産業の空洞化の問題、直接仕事に携わっていない自分には解決不可能な問

題として考えており、自分自身の老化については遠い将来のことくらい意識しか持っていない学生が多数なのである。

問三、人口の高齢化を論じる場合、六五歳以上人口を「高齢人口」、一五～六四歳人口を「生産年齢人口」と呼び、「老齡人口」の総人口に占める割合を老齡人口比率、また「生産年齢人口」に占める割合を老齡人口指数と定義してと定義して人口高齢化の目安とします。このことについておうかがいします。

(一) 老齡人口比率（「老齡人口」の総人口に占める割合）について

① 現在、日本の老齡人口比率はおよそ何パーセントくらいだと思いますか。

	男	女	計
1、五％程度	二二名（五・六％）	一二名（二・八％）	三四名（四・二％）
2、一〇％程度	一九名（三〇・五％）	一二三名（二九・一％）	二四二名（二九・八％）
3、一五％程度	一〇五名（二六・九％）	一四二名（三三・六％）	二四七名（三〇・四％）
4、二〇％程度	一二二名（三一・三％）	一二八名（三〇・三％）	二五〇名（三〇・八％）
5、二五％程度	二二名（五・六％）	一〇名（二・四％）	三二名（三・九％）
無回答	〇名（〇％）	七名（一・七％）	七名（〇・九％）

② それでは、老齡人口比率がピークになるといわれている西暦二〇二〇年（昭和九五年）頃には日本の老齡

人口比率はおよそ何パーセントくらいになると思いますか。

	男 性	女 性	計
1、一〇％程度	二四名（六・二％）	二名（〇・五％）	二六名（三・二％）
2、一五％程度	四〇名（二〇・三％）	一八名（四・三％）	五八名（七・一％）
3、二〇％程度	一二〇名（三〇・八％）	一二二名（二八・九％）	二四二名（二九・八％）
4、二五％程度	七六名（一九・五％）	一六四名（三八・九％）	二四〇名（二九・六％）
5、三〇％程度	一三〇名（三三・三％）	一一六名（二七・五％）	二四六名（三〇・三％）

(二) 老齢人口指数（「老齢人口」の「生産年齢人口」に占める割合）について。

① 現在、日本の老齢人口指数はおよそ何パーセントくらいだと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、一〇％程度	五二名（一三・三％）	五四名（一二・八％）	一〇六名（一三・一％）
2、一五％程度	一一四名（二九・二％）	一二〇名（二八・四％）	二三四名（二八・八％）
3、二〇％程度	一二八名（三二・八％）	一二六名（二九・九％）	二五四名（三一・三％）
4、二五％程度	五八名（二四・九％）	一〇二名（二四・二％）	一六〇名（一九・七％）
5、三〇％程度	三二名（八・二％）	一八名（四・三％）	五〇名（六・二％）
無回答	六名（一・五％）	二名（〇・五％）	八名（一・〇％）

② 老齡人口指数がピークになるといわれている西暦二〇二〇年（昭和九五年）頃には日本の老齡人口指数はおよそ何パーセントくらいになると思いますか。

	男 性	女 性	計
1、二〇%程度	三〇名（七・七%）	一六名（三・八%）	四六名（五・七%）
2、二五%程度	八一名（二〇・八%）	九〇名（二一・三%）	一七一名（二一・一%）
3、三〇%程度	一〇一名（二五・九%）	一五三名（三六・三%）	二五四名（三一・三%）
4、三五%程度	一〇九名（二七・九%）	一〇二名（二四・二%）	二一一名（二六・〇%）
5、四〇%程度	五五名（一四・一%）	四七名（一一・一%）	一〇二名（一二・六%）
無 回 答	一四名（三・六%）	一四名（三・三%）	二八名（三・四%）

(一)老齡人口の比率や(二)老齡人口の比率がピークに達するだろうと予測されている昭和九五年の比率に関する質問では、およそ三〇%の学生が正確な回答をしました。その反面、昭和九五年の老齡人口の比率のピーク予測を、三〇%程度と答えた学生が、男子学生で三三%、女子学生で二七・五%もあり、一般に急速な高齡化社会の到来という概念が、強迫観念として大きな数値を意識させている点が注目されます。

問四、現在の日本人の平均寿命はおよそ何歳くらいだと思いますか。（番号を御記入下さい）



① 男性の平均寿命は

	男 性	女 性	計
1、六五歳	三四名（八・七％）	一八名（四・三％）	五二名（六・四％）
2、七〇歳	一一〇名（二八・二％）	六四名（一五・二％）	一七四名（二一・四％）
3、七五歳	一九〇名（四八・七％）	二六八名（六三・五％）	四五八名（五六・四％）
4、八〇歳	五四名（一三・八％）	七二名（一七・一％）	一二六名（一五・五％）
5、八五歳	二名（〇・五％）	〇名（〇・〇％）	二名（〇・二％）

② 女性の平均寿命は

	男 性	女 性	計
1、六五歳	〇名（〇％）	〇名（〇％）	〇名（〇％）
2、七〇歳	一四名（三・六％）	六名（一・四％）	二〇名（二・五％）
3、七五歳	六八名（一七・四％）	四四名（一〇・四％）	一一二名（二三・八％）
4、八〇歳	二二八名（五五・九％）	二八六名（六七・八％）	五〇四名（六二・一％）
5、八五歳	九〇名（二三・一％）	八六名（二〇・四％）	一七六名（二一・七％）

日本人の平均寿命に付いては、およそ六〇％の学生が正確な知識を持っており、これは近年のマスコミ報道の中でも、日本人の平均寿命が世界第一であるため、トップニュースとして扱われることが比較的多く、学生の脳裏にクッ

キリと記憶されていると言えます。

問五、二一世紀を迎える西暦二〇〇〇年（昭和七五年）頃の日本人の平均寿命はおよそ何歳くらいになっていると思いますか。男女別に具体的年齢をお知らせください。

① 男性の平均寿命は

	男 性	女 性	計
1、八〇歳	一二六名（三二・三％）	八二名（三八・四％）	二八八名（三五・五％）
2、七五歳	七六名（一九・五％）	四〇名（九・五％）	一一六名（二四・三％）
3、八五歳	四六名（一一・八％）	三二名（七・六％）	七八名（九・六％）
4、七八歳	一六名（四・一％）	三八名（九・〇％）	五四名（六・七％）
5、七〇歳	一四名（三・六％）	二六名（六・二％）	四〇名（四・九％）

② 女性の平均寿命は

	男 性	女 性	計
1、八五歳	一一六名（二九・七％）	一三八名（三二・七％）	二五四名（三一・三％）
2、九〇歳	七六名（一九・〇％）	五六名（一二・三％）	一三〇名（二六・五％）
3、八〇歳	四六名（一一・八％）	四〇名（九・五％）	八六名（二〇・六％）
4、八三歳	一六名（四・一％）	三四名（八・一％）	五〇名（六・二％）
5、八二歳	一四名（三・六％）	三〇名（七・一％）	四四名（五・四％）

将来の平均寿命については八〇歳以上が普通であり、それ未満と考えている学生は全体の三%弱にすぎません。三〇%の学生は女子の平均寿命は八五歳になると考えており、三六%の学生は八六歳以上の平均寿命になるとしています。医学が進歩し、現在の難病も二一世紀までには、治療方法の発見や予防方法の開発が当然行われているだろうと予測されています。いわば現在の科学技術に全幅の信頼をおいており、メカに強い学生の一面を物語っています。

問六、あなたの目から見て、現在の日本の社会は高齢者にとって暮らしやすい社会だと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、非常に暮らしやすいと思う	一三名（三・三%）	一五名（三・六%）	二八名（三・四%）
2、まあ暮らしやすいと思う	一二六名（三二・三%）	一二四名（三〇・三%）	二五〇名（三一・三%）
3、あまり暮らしやすいと思う	一八四名（四九・七%）	二三六名（五五・九%）	四二〇名（五三・〇%）
4、全く暮らしにくいと思う	三一名（七・九%）	二九名（六・九%）	六〇名（七・四%）
5、わからない	二四名（六・二%）	一四名（三・三%）	三八名（四・七%）
無 回 答	二名（〇・五%）	〇名（〇・〇%）	二名（〇・二%）

現在の社会が高齢者にとって暮らしやすいかどうかの質問に対して、六〇%の学生が高齢者に同情的で、今日の社会は高齢者には暮らしにくく、不親切であると考えています。東京は、世界で一番、住宅費や食費が割高で、お金持ちのお年寄りにとっては便利で快適な暮らしが可能だが、年金を主な収入源とする老人にとっては暮らしにくい——との認識から、青年らしい優しさが表れています。

問七、このような高齡化社会への国や自治体の対応についてあなたはどのようにお考えですか。

	男 性	女 性	計
1、十分だと思う	八名（二・一％）	一〇名（二・四％）	一八名（二・二％）
2、まあ十分だと思う	七七名（二九・七％）	一一八名（二八・〇％）	一九五名（二四・〇％）
3、あまり十分だと思わない	二〇六名（五二・八％）	二二二名（五二・六％）	四二八名（五二・七％）
4、全く不十分だと思う	五八名（一四・九％）	五五名（一二・〇％）	一一三名（一三・九％）
5、わからない	三一名（七・九％）	一五名（三・五％）	四六名（五・七％）

高齡化社会への国や地方自治体の対応については、七八％の学生が不充分であると指摘しており、特に、社会資本の整備が立ち遅れているとの認識が示されています。ここ一年間の地価の異常な高騰は、個人はもちろん、国や地方自治体の都市整備にも大きな困難を伴うと理解されています。

問八、高齡化社会への国や自治体の対応についてどんな面での充実を望みますか。次の中からあてはまるものを三つまでお答えください。（複数回答）

- 一、高齡者の雇用の促進
- 二、公的年金制度（国民年金、厚生年金など）の改革・充実
- 三、医療・福祉施設の充実
- 四、在宅医療サービスの充実
- 五、高齡者が生活しやすい環境の整備
- 六、病院付老人施設の整備充実
- 七、高齡者の職業訓練の充実
- 八、生涯教育の充実

九、レクリエーション、教育、市民活動のための助成

一〇、高齢者向け住宅対策の充実

一一、その他（ ）

男 性		女 性	計
1	一一六名（二九・七％）	一五〇名（三五・五％）	二二六名（三二・八％）
2	一九四名（四九・七％）	二一八名（五一・七％）	四一二名（五〇・七％）
3	一九八名（五〇・八％）	二〇九名（四九・五％）	四〇七名（五〇・一％）
4	九九名（二五・四％）	九二名（二一・八％）	一九一名（二三・五％）
5	一五五名（三九・七％）	一八三名（四三・四％）	三三八名（四一・六％）
6	七八名（二〇・〇％）	九〇名（二一・三％）	一六八名（二〇・七％）
7	六四名（二六・四％）	六二名（一四・七％）	一二六名（一五・五％）
8	五七名（一四・六％）	七二名（一七・一％）	一二九名（一五・九％）
9	一一八名（三〇・三％）	一〇六名（二五・一％）	二二四名（二七・六％）
10	六四名（二六・四％）	七九名（一八・七％）	一四三名（一七・六％）
11	〇名（〇・〇％）	〇名（〇・〇％）	〇名（〇・〇％）
無	二七名（六・九％）	五名（一・二％）	三二名（三・九％）

学生が、主に国や地方自治体に何を整備・充実して欲しいかとの質問に対し、一位：公的年金の充実、二位：医療・福祉施設の充実、三位：高齢者が暮らしやすい生活環境——をあげています。何よりも、老後の経済面の安定に重点を置き、続いて、高齢者の有病率の高さから健康を重視している点は、高齢化社会を迎え、これから長期間、負担者の立場に立つ者としての心構えが強く感じられる回答です。また、他方、現在の高齢者側の要望と少しギャップがある回答として、高齢者の「生きがいとして」の仕事をしたいとの要望に、学生は三二・八%しか雇用の確保・促進の回答がなかった点があります。

産業構造の変化を学生は、第三次産業の拡大・発展と捉えている点は高齢者と同じでも、学生はより一層の高度サービス時代を予測し、現在までの高齢者の第二次産業中心の経験や知識では対応しにくいとの判断をしている点に若干の開きが読み取れます。

高齢化社会における長寿とは何か、高齢者が社会で果たす責任とは何か、どの様に社会に参加し、進歩や発展に貢献していただけるのか、ただ年齢が高いというだけで、邪魔者扱いや単に弱者であると断絶してはいないか——今後の本格的な高齢化社会においては、高齢者は社会の重要な構成員であり、他の構成員の良きパートナーとして位置づけられなければなりません。

問九、次にあなたご自身の高齢期の生活への準備についておうかがいします。高齢期の生活への準備はいつごろから始めるのがよいと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、大学を卒業して社会人になった時から	三五名（九・〇％）	三一名（七・三％）	六六名（八・一％）
2、結婚した時から	六三名（二五・九％）	八四名（二九・九％）	一四七名（二八・〇％）
3、子供（育児）に手がからなくなる頃から	一一〇名（二〇・二％）	九〇名（二一・三％）	二〇〇名（二四・六％）
4、子供が成人してから	七六名（一九・五％）	一〇〇名（二三・七％）	一七六名（二一・七％）
5、定年や仕事をやる少し前から	三四名（八・七％）	四六名（二〇・九％）	八〇名（九・九％）
6、特に準備する必要はない	二五名（六・四％）	一二名（二・八％）	三七名（四・六％）
7、わからない	四七名（一二・一％）	四三名（二〇・二％）	九〇名（一一・一％）
無回答	〇名（〇・〇％）	一六名（三・八％）	一六名（二・〇％）

問一〇、高齡期の生活への準備としてはどんなことに重点を置きたいと思いませんか。次の中から三つまでお知らせください。

	男 性	女 性	計
1、収入・貯蓄などの確保	二九〇名（七四・四％）	三二六名（七七・三％）	六一六名（七五・九％）
2、住宅の確保	一八二名（四六・七％）	一五八名（三七・四％）	三四〇名（四一・九％）
3、体力増進や健康保持	二〇〇名（四一・三％）	二〇八名（四九・三％）	四〇八名（五〇・二％）
4、専門的な技術や技能の習得	七〇名（一七・九％）	七〇名（一六・六％）	一四〇名（一七・二％）
5、家族関係の充実	一三〇名（三三・三％）	一四八名（三五・一％）	二七八名（三四・二％）
6、趣味を持つ	一五一名（三八・七％）	一九九名（四七・二％）	三五〇名（四三・一％）
7、地域における友人や仲間づくり	七〇名（一七・九％）	九〇名（二一・三％）	一六〇名（一九・七％）
8、その他	一〇名（二・六％）	一九名（四・五％）	二九名（三・六％）
9、特になし	二九名（七・四％）	一四名（三・三％）	四三名（五・三％）
10、わからない	二二名（五・六％）	八名（一・九％）	三〇名（三・七％）
無回答	一六名（四・一％）	二六名（六・二％）	四二名（五・二％）

自分自身の高齡期への準備は「結婚した時から」一八％、「子供に手がからなくなる頃から」二五％、「子供が成人してから」二二％と堅実に取り組む姿勢が見られます。また、準備内容としては、「収入・貯蓄」に重点を置き、次に「健康」の維持に強い関心を持ち、住宅への関心も断然高いと言えます。



問一一、あなたは、結婚後自分の両親との同居をどのようにお考えですか。(男性のみ)

	親 と 同 居	一 人 暮 ら し	計
1、絶対に同居したくない	六名 ( 四・九%)	一六名 ( 六・〇%)	二二名 ( 五・六%)
2、原則としては同居したくない	四五名 ( 三六・八%)	七三名 ( 二七・二%)	一二八名 ( 三〇・三%)
3、数年間は同居したくないが、その後は同居してもよい	二四名 ( 一九・七%)	八一名 ( 三〇・二%)	一〇五名 ( 二六・九%)
4、数年間別居した後はできるだけ同居したい	二七名 ( 二二・一%)	五六名 ( 二〇・九%)	八三名 ( 二一・三%)
5、最初から同居したい	二〇名 ( 一六・四%)	四二名 ( 一五・七%)	六二名 ( 一五・九%)
計	一二二名 ( 一〇〇・〇%)	二六八名 ( 一〇〇・〇%)	三九〇名 ( 一〇〇・〇%)

結婚観や両親との同居については、「同居したくない」三五・九%、「同居したい」三七・二%とほぼ同率です。新婚二～三年は同居したくないが、その後は「同居もやむを得ない」が二六・九%と各人各様の回答です。

問一二、あなたの親が働けなくなった時、歳老いた親の日常の生活費はどうなるとお考えですか。

（男性のみ）

	親と同居	一人暮らし	計
1、親が年金、貯蓄などで自分でまかなえると思う	一二名（九・八％）	二二名（八・二％）	三四名（八・七％）
2、親が出来る限り自分で負担し、残りを自分を含めた子供が負担すると思う	八二名（六七・二％）	一五六名（五八・二％）	二三八名（六一・〇％）
3、ほとんどを自分を含めた子供が負担すると思う	一八名（一四・八％）	七四名（二七・六％）	九二名（二三・六％）
4、わからない	一〇名（八・二％）	一六名（六・〇％）	二六名（六・六％）
計	一二二名（二〇〇・〇％）	二六八名（二〇〇・〇％）	三九〇名（二〇〇・〇％）

歳老いた親の生活費に関する質問には、「親ができるかぎり自分で負担し」、足りない分を兄弟で分担する割勘型の傾向が見られます。

問一三、あなたは結婚相手に選ぶときなら「長男」を避けようとお考えでしょうか。（女性のみ）

	親と同居	一人暮らし	計
1、そう考えている 2、続柄にはこだわらない 3、むしろ長男の方がよい 4、まだ、考えていない	四一名（二九・七％） 五四名（三九・一％） 二名（一・四％） 四一名（二九・七％）	九一名（三二・〇％） 一二〇名（三八・七％） 一五名（五・三％） 六八名（二三・九％）	一三三名（三一・三％） 一六四名（三八・九％） 一七名（四・〇％） 一〇九名（二五・九％）
計	一三八名（二〇・〇％）	二八四名（二〇・〇％）	四二二名（二〇・〇％）

問一四、あなたは、結婚相手の両親との同居をどのようにお考えですか。（女性のみ）

	親と同居	一人暮らし	計
1、絶対同居はしたくない 2、原則として同居はしたくない 3、数年間は同居したくないがその後は同居してもよい 4、数年間別居した後は出来るだけ同居したい 5、最初から同居したい	三二名（二三・二％） 六九名（五〇・〇％） 二一名（一五・二％） 八名（五・八％） 八名（五・八％）	六〇名（二一・八％） 一二九名（四五・四％） 五四名（一九・〇％） 一七名（六・九％） 二四名（八・五％）	九八名（二一・八％） 一九八名（四六・九％） 七五名（一七・八％） 二五名（五・九％） 三二名（七・六％）
計	一三八名（二〇・〇％）	二八四名（二〇・〇％）	四二二名（二〇・〇％）

女子学生の「長男」嫌いは三一％で、残りは結婚に至る成り行き次第となっています。

女子学生の六八・七％は、結婚相手の両親との同居を拒否、「できれば同居したくない」と答えた学生を加えると、八六・五％の女子学生が別居推進派と言えます。問一〇との格差が二〇％と大きなズレがあるとともに、老後の同居意識にも大きなズレがあります。他のアンケート調査によると、「娘夫婦が親と同居」一六％、「息子夫婦が親と同居」四五％、「別居」二〇％であって、同性同士の方が同居しやすいと考える親側の意識と、お金を送ってもらいながら別居するスタイルがベストであるという「若夫婦・高齡者両スタイル折衷型」も時々見受けられます。いずれにしろ、要は財産があれば同居して、大切に扱われるが、そうでない場合は、別居の傾向が一段と強まるだろうと言えるのではないだろうか。

問一五、あなたは自分が高齡になった時、子供と同居したいと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、絶対同居したい	二五名（六・四％）	二六名（六・二％）	五一名（六・三％）
2、出来たら同居したい	一三四名（三四・四％）	一四一名（三三・四％）	二七五名（三三・九％）
3、同居したいがあきらめる	五〇名（二・八％）	四二名（二〇・〇％）	九八名（二一・三％）
4、なるべく別居したい	八九名（二二・八％）	一一二名（二六・五％）	二〇一名（二四・八％）
5、絶対に別居したい	八名（二・一％）	二二名（五・二％）	三〇名（三・七％）
6、わからない	七八名（二〇・〇％）	七九名（二八・七％）	一五七名（二九・五％）
無 回 答	六名（一・五％）	〇名（〇・〇％）	六名（〇・七％）

問一六、あなたは、自分が高年齢になったとき、子供とどの様なつながりを持ちたいと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、精神的な面に重きを置いたつながりを持ちたい	七四名（二九・〇％）	一七三名（四一・〇％）	二四七名（三〇・四％）
2、経済的な面に重きを置いたつながりを持ちたい	五七名（二四・六％）	二七名（六・四％）	八四名（一〇・三％）
3、精神的、経済的両面に重きを置いたつながりを持ちたい	一〇八名（二七・七％）	九二名（二一・八％）	二〇〇名（二四・六％）
4、子供からは精神的、経済的両面において自立したい	八六名（二二・一％）	九四名（二二・三％）	一八〇名（二二・一％）
5、わからない	六五名（二六・七％）	三二名（七・六％）	九七名（一二・九％）
無回答	〇名（〇・〇％）	四名（〇・九％）	四名（〇・五％）

「反対に、学生が老人になった時に、子供夫婦と「同居したい」と答えた者は四〇％弱、「同居したいがぎりぎめる」の一一・三％を加えると、半数以上の学生は、自分が老人になったら「息子夫婦」や「娘夫婦」と同居したいと甘えた回答を示しました。

問一七、あなたは何歳くらいまで仕事をしたいと思いますか。

	男 性	女 性	計
1、体が許す限り仕事をしたい	一五七名（四〇・三％）	一一二名（二六・五％）	二六九名（三三・一％）
2、七〇歳くらいまで仕事をしたい	一八名（四・六％）	一〇名（二・四％）	二八名（三・四％）
3、六五歳くらいまで仕事をしたい	八五名（二一・八％）	三〇名（七・一％）	一一五名（二四・二％）
4、六〇歳くらいまで仕事をしたい	七〇名（一八・〇％）	七〇名（二六・六％）	一四〇名（二七・二％）
5、わからない	五八名（二四・九％）	一九六名（四六・四％）	二五四名（三一・三％）
無回答	二名（〇・五％）	四名（九・五％）	六名（七・四％）

問一八、あなたは六五歳以後主にどんなことをしてすごしていきたいと思えますか。

	男 性	女 性	計
1、仕事	五二名（一三・三％）	二八名（六・六％）	八〇名（九・九％）
2、趣味、教養、学習	一五二名（三九・九％）	二二八名（五一・七％）	三七〇名（四五・六％）
3、友人や地域の人との交流	七六名（一九・五％）	八二名（一九・四％）	一五八名（二九・五％）
4、家族とのんびりした生活	九八名（二五・一％）	八八名（二〇・九％）	一八六名（二二・九％）
5、その他	一二名（三・一％）	六名（一・四％）	一八名（二・二％）

問一九、あなたは高年齢になった時、日本の社会は高齢者にとって、現在の高齢者よりも恵まれた生活をおくれるような社会になっていると思いますか。

	男 性	女 性	計
1、現在の高齢者より恵まれた生活 が出来ると思う	八四名（二一・五％）	一〇八名（二五・六％）	一九二名（二三・六％）
2、現在の高齢者と同じ程度だと思 う	一三五名（三四・六％）	一一九名（二八・二％）	二五四名（三一・三％）
3、現在の高齢者より厳しい生活を 強いられると思う	一一五名（二九・五％）	一五五名（三六・七％）	二七〇名（三三・三％）
4、わからない	五四名（二三・八％）	四〇名（九・五％）	九四名（一一・六％）
無 回 答	二名（〇・五％）	〇名（〇・〇％）	二名（〇・二％）

問六との関連で、現在の大学生が約四〇年後、高年齢になったときの暮らしやすさについてたずねたところ、わずかに二三％の人が恵まれると答えているにすぎず、六割強が現在と同程度か、もしくは厳しい社会になるとみております。

不透明、不安な将来に対して、問八の回答にもありましたが、老後の経済面の安定や医療・福祉施設の充実を切に望む要因がここらにあるようです。

## 高齢化社会とは

人生八〇年時代とは、長寿者が多い社会と言えます。このことは戦後の日本の経済成長と深く関わっています。経済成長の結果、日本人の食生活や食習慣がバラエティーになると同時に、医療保険制度等の整備・充実はもとより、医学の画期的進歩によって、高齢化社会が実現されているのです。高齢化社会は、個人の平均寿命が延びて、「子供を育てるだけの人生」から、「子育て後の人生の時代」と認識され、子育て後の人生をどの様に生きるかの時代の到来であり、人生のどの時期に各人が何をするのかという「選択」の時代の到来であると定義されます。

今回の意識調査を総括すれば、まさに今後の若い学生の時代は、すべてに対して「選択」と価値観の「多様性」を生かした、「個性」「自立」の時代であり、これを高齢化社会と位置づけることができるでしょう。

以上